

学びを自己調整する生徒の姿～単元内自由進度学習を通じて～

実践内容

【本校がかかえる学力面の課題と解決に向けての方策】

▲学習にむかう意識（飯田市まで1時間弱、通塾率は3%） ▲定着度（NRT検査や全国学調、定期考査の結果より）

「自ら学ぶ楽しさや充実感を感じつつ、自分の可能性を広げるための学力を伸ばしたい」

→生徒が自ら学ぶ力を高められるように、令和5年度より単元内自由進度学習を取り入れる

※私たちが考える「学力」が  
 「方法知」：学びを自己調整する力（学びに向かう態度）  
 「内容知」：教科としての「つきたい力」（知識・技能）  
 （思考力・判断力・表現力）

- ・各教科で各学期～年に1回程度、単元を決め出して実践
- ・学びの自己調整の幅を広げられるように2教科同時展開（数・社）でも実施

【2教科同時展開（数学+社会）へのチャレンジ】

	1	2	3	4
	10/21 (火)	10/21 (火)	10/23 (木)	10/24 (金)
氏名	13	15	2	15
	数学 No.1	社会 中部地上 白	数学 No.2	社会 中部地方
	数学 No.1	社会 白地図とか	数学 NO.1	社会 NO.2
	数学 No.1	社会 白地図	数学 2.2-1	社会 白地図
	数学 No.1	社会 白地図	数学 No.1	社会 白地図
	数学 No.1	社会 白地図	数学 No.2	社会 白地図
	数学 No.1	社会 No.3	数学 No.2	社会 白地図
	数学 No.1	社会 中部地方	数学 No.1	社会 白地図
	数学 No.1	社会 中部地方	数学 No.2	社会 白地図
	数学 No.1	社会 中部地方	数学 No.2	社会 白地図
	数学 No.1	社会 中部地方	数学 No.2	社会 白地図

ICTを活用し計画と進度を「見える化」して共有  
 →生徒の自己調整と教師の見取りに活かす

情報端末で図形の具体的操作【数学科】

情報端末で問題演習【数学科】



教科書で記述を確認【社会科】

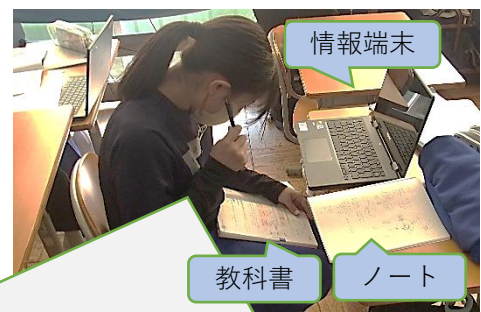
地図帳で場所を確認【社会科】

- ◎2教科分の時数による長期的な学びができ、自分の進度や理解に応じ、やり直しや繰り返しなど、学習を自己調整しやすい。
- ◎一斉の進度ではないため他と比べられることが少なくなり、得意教科を教え合うなど生徒同士の学び合いを活性化できる。
- ▲学びがゆっくりな生徒の躓きを見取り補填する手立てが必要。
- ▲「答えだけ分かればいい」という生徒の探究心を喚起するための手立てが必要。
- ▲教科担任を2教科同時に揃えることが難しい。

自由進度学習を行った単元

【「つきたい力」はついたのか？】

- (1)テストの結果から（正答率%）  
 社会：中国・四国（66%）⇒中部（60%） ※定期テスト  
 数学：連立方程式（54%）⇒図形の調べ方（75%） ※単元テスト
- (2)生徒の振り返りから（2教科同時展開後のアンケート結果）  
 「力がついたと思う」と回答した生徒：社会56%、数学75%  
 「またやってみたい」：社会38%、数学63%  
 「自分の学習方法に変化があった」：94%
- (3)自己調整しながら学ぶ生徒の声



大事なことや解き方は教科書で確認しながら勉強しています。ノートは計算を書き込むために使っていて、実際に書くことで頭の中が整理されます。PC(情報端末)では、解説動画を見たり図形を動かしてみたりすることで、正解までのイメージが持ちやすくなります。最後に出た解答や授業の振り返りはPCで答えています。

成果(◎)と課題(▲)

- ◎生徒の「学びに向かう態度」が向上した（「自分の学習方法に変化があった」と94%の生徒が回答）
- ◎自分のペースで学習することで「知識・技能」が向上した（特に数学の定着度において）
- ◎教師の授業力が向上した（単元を通じた授業構想、ルーブリック作成、スモールステップ評価など）
- ▲「見方・考え方」がどこまで身についたのか、教師がどう把握していけばよいか
- ▲学びの振り返りの場面をどのように仕組んでいけばよいか
- ▲時間内に単元の学習内容を学び切れなかった生徒をどう支援していけばよいか
- ▲2教科同時に行うことのメリットについての検証